

魔神の呪

(大正六年寮歌)

佐藤惣之助君 作歌

植村泰二君 作曲

一

魔神まじんの呪のろいアルペンの
白雪はくせつ永久とほに清きよからず
見みよ永劫えいごうと誓ちかひけん
平和へいわの春はるは短みじかくて
吹ふく凋落ちようらくの秋風あきかぜに
正義せいぎの光影ひかりかげくらし

二

されど儼然げんぜん東洋とうように
その義ぎと俠きやうを胸むねにして
燦さんたる北斗ほくと北陸ほくろくの
強きやうと仰あおがれ誇こりつづつ
自治じちを精神いのちの我寮わがは
映華えいけしある歴史しじゆう十二年

三

嗚呼ああ北海ほつかいの荒吹雪あらふぶき
白箭はくせん膚はだを撃つくも
胸むねの狂瀾きやうらん青春せいしゆんの
血潮ちしおに如何いかで比ひすべきぞ
力ちからの緒琴おごと高鳴たかなりて
紅くれなゐ燃もゆる悶もだえあり

四

殘陽ざんよう西にしに茜あかねして
今日きようも暮くれ行く手稲山ていねやま
雲くもの五彩ごさいを眺ながめては
思おもひは遠へうく渺茫ぼうぼうの
彼かの海うみを越こえ山やまを越こえ
雄図ゆうと千里せんりぞ駈はしりゆく

五

平和へいわの流れなが豊平とよひらの
狭霧さぎり罩こめたる朝あさぼらけ
東ひんがし指さして流ながれ行く
淙々そうそうの音ねを我聴われきけ
瀨々せせの河波かはなみ声こえあげて
唄うたふ「自由じゆう」の二字にじの曲きよく

六

今宵こよい榆影ゆえいに団欒まじあひして
月影つきかげに酌しやくむ自治じちの宴えん
廻めぐる盃さかずき夜よも更ふけて
北斗ほくと傾かたぶく玻璃はりの窓まど
いざ吾わが友ともよ熟睡うまいせむ
明日あすは人生じんせいの旅たびなれば